

令和6年5月9日

報道関係者 様

長崎県消防長会長

狩野 徳智

(公印省略)

第40回長崎県消防救助技術指導大会の開催について（お知らせ）

新緑の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

平素から、消防行政の推進につきましては、格別の御協力と御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、県内の各消防本部においては、地域住民の生命、身体及び財産を保護するため、日々の訓練を通じて、救助技術の習得向上に励んでいるところです。

この度、その訓練の成果の場として、次のとおり標記大会を開催いたしますのでお知らせいたします。

1 目 的

県下消防本部の救助隊員の技術の向上と士気の高揚を図ることを目的とする。

2 日 時

令和6年5月22日（水）10：00～（雨天決行）

3 場 所

大村市森園町663-6 「長崎県消防学校」他

4 主 催

長崎県、長崎県消防長会

5 参加消防本部（県下全ての10消防本部）

長崎市消防局、佐世保市消防局、県央地域広域市町村圏組合消防本部

島原地域広域市町村圏組合消防本部、五島市消防本部、平戸市消防本部

松浦市消防本部、杵岐市消防本部、対馬市消防本部、新上五島町消防本部

6 競技種目及び出場予定数

(1) 基礎訓練

種 目	出 場 予 定 人 員
ロープブリッジ渡過	12名
はしご登はん	21名

(2) 連携訓練

種 目	出 場 予 定 チ ー ム (人 員)
ロープ応用登はん	5チーム(10名)
ほふく救出	15チーム(45名)
ロープブリッジ救出	10チーム(40名)

7 競技方法

(1) ロープブリッジ渡過

水平にした渡過ロープのスタート地点から、前方20メートル先で折り返す、往復40メートルの距離を、往路はセーラー渡過、復路はモンキー渡過により、その安全性と所要タイムを評価する。(基準タイム28秒)

※ ビル火災、あるいは河川等の氾濫により孤立した者を、隣接ビルや岸等から救助するために、要救助者のいる場所へいち早く進入するための訓練です。

(2) はしご登はん

塔前5メートルからスタートし、自己確保の結索を行った後、垂直はしごを15メートル登はんし、その安全性・確実性とあわせて所要時間を評価する。
(基準タイム24秒)

※ 火災時において、ビル等の上層階に逃げ遅れた人を、備え付けのはしご又は消防隊所有のはしごにより救出するための訓練です。

(3) ロープ応用登はん

2名1組で、登はん者が塔前2メートルからスタートし、搭上から垂下されたロープを地上高15メートルの到達点まで器具を使わず、補助者の補助を受けながら登り、その確実性と所要時間を評価する。

(基準タイム16秒)

※ 火災現場において、高所に孤立する要救助者を救助するため、登はんの補助を受け、要救助者のいる場所へ進入する訓練です。

(4) ほふく救出

3名（要救助者を含む）1組で、2名が煙道後方15メートルの位置からスタートし、空気呼吸器を装着して確保ロープ及び小綱を両足に結索した後、8メートルの煙道を検索して、要救助者を屋外に救出し、2名が協力して要救助者を安全地帯（スタート地点）に搬送するまでの安全性・確実性とあわせて所要時間を評価する。（基準タイム62秒）

※ 火災現場、狭い場所等において濃煙や有毒ガスの中で逃げ遅れた者等を探し出し、救出する訓練です。

(5) ロープブリッジ救出

4名（要救助者含む）1組で、対面する塔上の要救助者を設定された渡過ロープにより、進入・救出及び脱出するまでの行動過程の安全性・確実性とあわせて所要時間を評価する。（基準タイム75秒）

※ ビル火災、あるいは河川の氾濫等により孤立した者を、隣接ビルや対岸等から救助する訓練です。

8 その他

本大会は、第52回九州地区消防救助技術指導会（7月19日（金）福岡県嘉麻市牛隈1794 福岡県消防学校）及び第52回全国消防救助技術大会（8月23日（金）千葉県市原市菊間783番1号 千葉県消防学校）出場選手選考会を兼ねるものです。

問い合わせ先 長崎県消防長会事務局（長崎市消防局） 長崎市興善町3-1 担当 新町 祐二 TEL 095-822-0441 FAX 095-825-2995
--